

株式
会社

日刊金属新聞社

発行人 小林 恒 甫

大阪市城東区藤生1-3-7

本社 電話 (06) 6932-6443 代表

富山県富山市西町1-30-508号内

北陸支社 電話 (076) 444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3月22,050円

日刊メタルレポート

大坂亜鉛工業株式会社

住友金属 鉱山電気亜鉛
資源亜鉛・原料指定問屋
亜鉛トross・洋買入

取締役社長 林 昭 宏

〒555-1 大阪府西淀川区柳丁1-14番3号
06-6541-0000 電話 (06) 6417-1151 代表
06-6541-0001 電話 (06) 6417-1152 代表
06-6541-0002 電話 (06) 6417-1153 代表

アルミ 新地金が六六%増加

輸入合金スクラップ八%減少

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

【概況】二月前半、ギリシヤ懸念に世界経済が揺れる中、好調な中国経済、また回復基調に渡る米経済、相方が予想外の金融引き締めを行ない波瀾の展開。後半はギリシヤ懸念後退とFRBバーナンキ議長金融緩和継続発言を受け、安心感からLMFアルミは二、一〇〇ドル台へ上昇、アルミ新規ベースの軽圧向け上物スクラップは前月からの下げに伴い一五円程度下落、ただ二次合金向けスクラップは、上海シグマD12Sの二、三〇〇ドル維持や、ロシア塊の二、〇〇〇ドル維持を受け代替品需要が急増、価格が需給に左右される代替品アルミスクリップは原料逼迫から下げ切れず、事実上据え置いた。

自動車生産台数

日本自動車工業会発表によると自動車生産台数は前月比四・四%減の七五万三、七七三台(前年前月比二〇・五%減)。

◆新設住宅着工戸数

また国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比六・三%減の六万四、九五戸数であった(前年同期比一四%減)。(二面へ続く)

カナダで現地企業と共同探鉱

レアアース権益確保でJOGEC

石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGEC)は三日、カナダの探鉱会社ミッドランド・エクスプロレーション社と、レアアース(希土類)鉱床の共同探鉱契約を結んだと発表し、三年間で二七〇万カナダドル(約二億三、二〇〇万円)を負担し、権益の五〇%を確保した。携帯電話やハイブリット車向けに需要拡大が見込まれるレアアースは、世界の生産量のほとんどを中国が占めており、新たな供給源確保が狙い。

探鉱対象は、カナダ北東部のイッテルビル地域、近くは世界最大級のレアアース鉱床があることから、鉱床の存在が期待できるといふ。

また、JOGECはリチウム資源確保のため、カナダの探鉱会社ロミコ・メタルズ社と米国内ネバダ州での共同探鉱契約を結んだことを明らかにした。三年間で二五〇万ドル(約二億二、〇〇〇万円)を負担し、五二%の権益を確保する。

新幹線を支える
イクリの銅合金インゴット

高品質を追求するイクリの銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

株式会社 **イクリ**

〒564-0002 大阪府此花区繁吉2-3-53
06-6460-2246 代表
FAX 6460-2365

青銅・リン青銅
アルミ青銅
美濃青銅
黄銅 鉛青銅
など各種

N700系のみ
(両端300材)

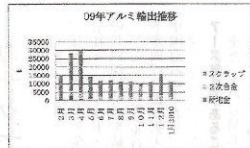
アルミスクラップ相場 三月後半にかけて一〇円高も

輸入塊に割高感がなおも強く 年間比一八・六％減。

(二面より続く)
◆貿易指標

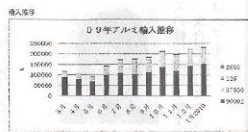
【輸出】財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比六・六％増の二二〇八トン、二次合金は同三六・六％減の一、九八八トン、スクラップは同二九・六％減の八、八一五トン。

	11月	12月	1月
輸出			
新地金	77 t	102 t	230 t
増月比	-43%	+70%	+66%
二次合金	1973 t	3138 t	1988 t
増月比	-1.7%	+59%	-36.6%
スクラップ	8918 t	1万1921 t	8815 t
増月比	+10.8%	+47%	-23.6%

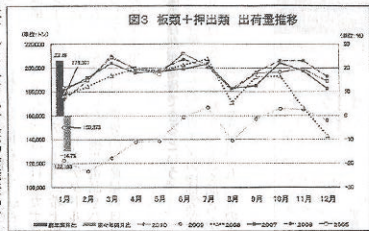


【輸入】輸入は新地金が前月比七・一％増の一五万五、二九〇トン、二次合金が一・七％減の七万三、四四〇トン、アルミスクラップは九・五％増の七六〇トン、二次合金原料としての需要が多い、合金スクラップ八％減の一、七三二トン。

	11月	12月	1月
輸入			
新地金	12万1540 t	24万4071 t	15万5200 t
増月比	-11%	+19%	-7.2%
二次合金	7万7895 t	7万4716 t	7万3640 t
増月比	+6.2%	-4%	-1.7%
スクラップ	978 t	694 t	780 t
増月比	-21.7%	+88%	+6.8%
合金スクラップ	9478 t	4589 t	1万732 t
増月比	-21.6%	+1.3%	-8%



【一月の国内指標】日本アルミニウム協会発表の庄産品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比七・六％減の一四万七、九九七トン（前



日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比〇・二％減の六万五、二二七トンであった（前年の前月比二七％減）。（グラフは第六面に掲載）

【見通し】一月は自動車生産・二次合金生産とも季節要因で前月比ではマイナスとなったが、前年の同期比からは九％増・三％増と改善されており、今後も回復が期待できる。しかし新設住宅着工数の伸び悩み同様、圧延・押出品生産数も前月比との比較で改善率が一四％下落と、まだまだ回復は期待できない。貿易は国内在庫のひっ迫感から輸出減・輸入増にはなっているが、内外価格差から積極的に買えず輸入もひと桁の伸びとなった。LME価格については米中の金融引き締め、ギリシャ問題も乗り越え、今だ二、〇〇〇、二、〇〇〇ドル台を推移、今後もこの水準か。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては、内需中心の軽圧用スクラップは五・一〇円下げの要素があるものの、二次合金スクラップに関しては前月同様、国内原料はほとんどなく、また上海シグマ、ロシア塊等の輸入塊も値下げの要素が見当たらないことから原料争奪戦は継続、三月後半にかけてもう五〜一〇円上げと予測している。

出典 日本アルミニウム協会